

## 第2回ボランティア学習・東京フォーラム2017 開催報告書

1. 日 時：2017年10月1日（日）15時～17時
2. 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟2F
3. テーマ：「地域学校協働活動の現状と課題」
4. 参加者：10名（会員及び社会教育関係者）
5. 内 容：講師による説明の後、参加者間で質疑・意見交換
6. 概 要

第2回東京フォーラムでは、国立社会教育実践研究センター二宮伸司氏（社会教育調査官）と國府田大氏（専門調査員）を講師にお迎えし、社会教育実践センターの活動から話題提供を頂き、現在推進している「学校・家庭・地域」の「協働」あり方について議論を深めました。

まず、社会教育実践センターの沿革から役割、事業内容など、当センターに関する基礎知識からお話を進めていただきました。さらには、社会環境の変化に伴い、学校教育に対する社会教育の支援、さらには現在「地域学校協働活動」へと変遷してきている経緯を伺いました。なぜ、今「連携・協働」なのか、また、その「連携・協働」をより有効にするために、実際にはどのようなことをすべきなのかとの議論へと進みました。

地域全体で、または市民一人ひとりが「子ども」たちを地域の中で育てていく社会的な責任を分担する、と言う意識を持ち、特別なボランティアでなくても、できることで楽しみながら学校と協働するような仕組みを考える。「協働」と言える相互的な助け合いであること。かつて「公民館」が地域ごとに果たしていた社会教育の役割を再生することも大切。学校を支援する、のではなく学校の力や教職員の力も活かしつつ、地域そのものを再生していけるような「戦略」が必要で、その地域ごとの特性を活かして柔軟に考えていくことを考えていけるように…。

2時間、休憩もなく話が進み、それでももっと話が続きそうなところで、時間切れとなりました。

私個人として、学校教育の現場から地域へと生徒を出していく、そのための準備は大変であるが、学校では学べない、体験的な学びがそこにあることは確かです。そして、生徒の成長だけでなく、地域にも変化が



起こる…。キャリア教育、シチズンシップ教育と名前を変えて学校になだれ込んでくるさまざまな教育活動こそ地域での学びを大切にすべきではないか、との思いをまた新たにしました。「協働」であることの意味、さらに考えていきたいことです。（大坪）